

令和7年度 地理歴史 (L)

問 題 訂 正

<Ⅱ 歴史総合・世界史探究問題>

問題冊子 4 ページ (Ⅱ) 問3 3行目

(誤) 遷海令

(正) 遷界令

Ⅱ

歴史総合・世界史探究問題

- (I) 次の文章は、クリミア・ハン国(クリム・ハン国)の君主シャーヒン・ギライがロドス島(現ギリシア共和国領)において処刑された折に、オスマン帝国の詩人によって詠まれた詩である。これを読み、下の問い(問1～問2)に答えなさい。

帝王のお慈悲という名の乳で育まれた小鳥のくせに、馬乳酒を煽って乱心してその僥倖を拒んだ

自らを鷹と妄信し、しかし血塗れた鷲のような処刑人たちを見るや怯えて雀さながらに身をこごめ

「翼はたたみました、どうかお助け下さい」と言い、カラスのような黒い顔で泣きわめく

ほんの短い間、異教徒どもの酒と豚肉を飲み食いしただけで「余はロシア人の慈悲に養われた」と恐れげもなく放言していたくせに

(中略)

偉大なるチンギス・ハンの血族の誉はいまや汚れた、このような過ちを仕出かした者がその末裔であるとは思われない

(スュンビュルザーデ・ヴェフビー作「飛鳥の頌歌」(1787))

- 問1 シャーヒン・ギライはなぜ処刑されたと考えられるか。当時の黒海北岸と南岸の状況、およびこの詩の内容を踏まえて答えなさい(150字程度)。

- 問2 下線部に関して、15世紀から17世紀末までのモスクワを中心とする国家の勢力拡大を、その東方の勢力との関係に着目して、説明しなさい(150字程度)。

(Ⅱ) 次の文章は、修学旅行で訪れたトルコのイスタンブールに関する、高校三年生Aさんと担任B先生の会話文である。これを読み、下の問い(問1～問4)に答えなさい。

Aさん：イスタンブールで一番印象に残ったのは、トプカプ宮殿に展示されていた陶磁器のコレクションです。14世紀中葉に制作された染付(青花)をはじめ、中国の陶磁器はどれも美しく、圧巻でした。

B先生：中国の白磁に西方のコバルト顔料で絵付けを行う染付(青花)は、モンゴル帝国下におけるユーラシアの東西交流^①を象徴する文物ですね。ちなみにトプカプ宮殿の陶磁器コレクションには、中国以外の国で生産された陶磁器も含まれていました。Aさんは気が付きましたか？

Aさん：はい、コレクションにはベトナムで生産された陶磁器もありました。陶磁器に記された銘文から、この作品は1450年頃、北部ベトナムで製造されたことが分かります。

B先生：陶磁器の出土状況が示すところによると、15世紀の東南アジアでは^②中国産陶磁器の輸入が顕著に減少し、タイやベトナムで生産された陶磁器の流通が拡大したようです。このほかトプカプ宮殿の陶磁コレクションには、日本製の磁器もみられましたね。

Aさん：有田焼の名品が多数展示されていました。九州で国産化された日本の磁器は、17世紀後半に各地へ輸出され始めるんですよね。^③

B先生：陶磁器を含め、江戸時代には従来輸入に頼ってきた商品の国産化が進展しました。そうした商品の一部は、19世紀後半に日本が開港した際、^④重要な輸出品を構成することとなります。

問 1 下線部①に関連し、モンゴル帝国時代の東西交流に関する記述として適切なものを次のア～エから一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

ア モンゴル帝国下のユーラシアでは、遠距離交易からムスリム商人が排除された。

イ 郭守敬はイスラーム天文学の知識を活かし、高精度の太陽暦である授時暦を作成した。

ウ イエズス会の宣教師が西洋の科学技術を中国に伝えた。

エ 海上進出を図る元は、南方で陳朝・チャンパー王国・ジャワ島などに遠征軍を送った。

問 2 下線部②の現象の背後にあったと考えられる要因を説明しなさい(50 字程度)。

問 3 下線部③について、日本の磁器生産・輸出をめぐるこうした動きの歴史的背景を、次の語句を使い論じなさい(150 字程度)。

遷海令 朝鮮半島

問 4 下線部④に関連する次のページの表 1 は、1873～1888 年の日本から世界各地への陶磁器輸出額の推移を示したものである。この表から読み取れる輸出額の変化とその背景として適切なものを、次のア～エから一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

ア 対中輸出額は 1880 年代に増加傾向を見せ始めるが、その背景として、義和団戦争により中国の陶磁器生産が混乱したことを指摘できる。

イ 1879 年を境にイギリスへの輸出額が激増したのは、日英同盟の締結によって両国の貿易関係が緊密化したためである。

ウ 1870 年代後半から欧米への輸出額が拡大している背景としては、万国博覧会を通じた日本の物産や文化に関する情報の浸透が考えられる。

エ アメリカ向け輸出額が 1880 年代の後半に顕著な伸びを見せるのは、パナマ運河の開通により海運の規模が拡大したためである。

表1 陶磁器輸出統計(1873-88年) (単位=千円)

年	中 国	イギリス	ドイツ	フランス	アメリカ
1873	43	38	0	10	6
1874	33	29	1	9	10
1875	56	29	0	6	12
1876	31	18	0	5	6
1877	22	45	1	24	37
1878	25	55	1	39	51
1879	24	104	7	68	133
1880	73	130	(データなし)	78	167
1881	72	201	7	113	282
1882	76	165	11	125	166
1883	102	165	13	81	118
1884	103	155	25	76	125
1885	170	203	27	124	127
1886	336	225	33	123	209
1887	385	259	52	181	295
1888	323	264	77	148	326

宮地英敏『近代日本の陶磁器業』名古屋大学出版会，附表1より作成(一部改変)

Ⅲ 次の文章は、ある王朝が、対立する王朝に送った外交文書の一部を日本語に訳したものである(文中の「景德元年」はおおむね西暦 1004 年に属する)。これを読み、下の問い(問 1 ～ 問 4)に答えなさい。

景德元年の甲辰^{きのえたつ}の歳、十二月七日に、大宋皇帝が謹んで誓書^{しちが}を大契丹皇帝にお送りいたします。共に誠信^{つつし}に^{したが}、^{つつし}度んで盟約を奉じましょう。

我が国の物産によって貴国の軍事費を援助することとし、毎年、絹 20 万匹^①、銀 10 万両をお送りします。そのための正式の外交使節を北朝たる貴国にわざわざ派遣することはせず、ただ財務担当庁から人員を派遣して雄州まで運搬のうえお渡しします。辺境の諸州の軍士は互いに境界を守り、両地の人戸は互いに侵入せず、盗賊が逃亡しても互いに隠匿せず、南北両国とも田畑の農作業を妨害しないこととしましょう。両王朝の城壁や水濠はみな旧来どおりに維持し、水濠^{しゅんせつ}の浚^{しゅん}濬^{せつ}や修理は一切通常どおり行うものの、新たな城壁や水濠の建設や河道の掘削は不可としましょう。この誓書の規定以外には互いに何も要求しないこととしましょう。(中略)

もしもこの盟約に違反したら、我らは王朝を存続させることはできません。明らかに上天がお見通しになり、両国を滅ぼすことでしょう。ここに所信を述べ、貴国のご回答をお待ちいたします。

問 1 この外交文書により締結された盟約の名称を答えなさい。

問 2 この外交文書を発出した王朝は、下線部①と似たような条件で別の王朝とも盟約を結んでいる。その王朝として適切なものを、次のア～エから一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

ア 高句麗

イ 西 夏

ウ 黎朝(レ朝)

エ ガズナ朝

問 3 この外交文書が発出されるに至った歴史的背景について、発出されるまでの約 1 世紀間を対象として説明しなさい(100 字程度)。

問 4 この外交文書により締結された盟約が、この文書を発出した王朝に与えた影響について説明しなさい(100 字程度)。